

# 四 半 期 報 告 書

(第127期第3四半期)

自 2018年7月1日

至 2018年9月30日

住友ゴム工業株式会社

E01110

# 目 次

頁

表紙

第一部 【企業情報】 .....	1
第1 【企業の概況】 .....	1
1 【主要な経営指標等の推移】 .....	1
2 【事業の内容】 .....	1
第2 【事業の状況】 .....	2
1 【事業等のリスク】 .....	2
2 【経営上の重要な契約等】 .....	2
3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】 .....	2
第3 【提出会社の状況】 .....	5
1 【株式等の状況】 .....	5
2 【役員の状況】 .....	6
第4 【経理の状況】 .....	7
1 【要約四半期連結財務諸表】 .....	8
2 【その他】 .....	28
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】 .....	29

四半期レビュー報告書

## 【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2018年11月8日
【四半期会計期間】	第127期第3四半期（自 2018年7月1日 至 2018年9月30日）
【会社名】	住友ゴム工業株式会社
【英訳名】	Sumitomo Rubber Industries, Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 池田 育嗣
【本店の所在の場所】	神戸市中央区脇浜町三丁目6番9号
【電話番号】	078-265-3000（代表）
【事務連絡者氏名】	執行役員経理部長 河野 隆志
【最寄りの連絡場所】	神戸市中央区脇浜町三丁目6番9号
【電話番号】	078-265-3000（代表）
【事務連絡者氏名】	執行役員経理部長 河野 隆志
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第126期 第3四半期 連結累計期間	第127期 第3四半期 連結累計期間	第126期
会計期間	自 2017年1月1日 至 2017年9月30日	自 2018年1月1日 至 2018年9月30日	自 2017年1月1日 至 2017年12月31日
売上収益 (第3四半期連結会計期間) (百万円)	618,311 ( 214,934)	635,974 ( 210,622)	877,866
税引前四半期(当期)利益 (百万円)	29,279	27,788	65,733
親会社の所有者に帰属する 四半期(当期)利益 (第3四半期連結会計期間) (百万円)	16,985 ( 4,556)	17,141 ( 2,919)	46,979
親会社の所有者に帰属する 四半期(当期)包括利益 (百万円)	21,093	△5,194	60,440
親会社の所有者に帰属する持分 (百万円)	432,978	453,062	459,907
総資産額 (百万円)	990,036	1,007,854	1,018,266
基本的1株当たり四半期 (当期)利益 (第3四半期連結会計期間) (円)	64.81 ( 17.41)	65.39 ( 11.10)	180.45
希薄化後1株当たり四半期 (当期)利益 (円)	—	—	—
親会社所有者帰属持分比率 (%)	43.7	45.0	45.2
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	29,475	47,030	76,109
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	△82,801	△51,974	△100,724
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	53,332	10,839	21,706
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高 (百万円)	66,791	65,744	64,528

- (注) 1. 当社は要約四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上収益には、消費税等は含まれておりません。
3. 希薄化後1株当たり四半期(当期)利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
4. 上記指標は、国際会計基準(以下、IFRS)により作成された要約四半期連結財務諸表及び連結財務諸表に基づいております。

#### 2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社と子会社(以下「当社グループ」という。)及び関連会社が営む事業の内容について、重要な変更はありません。なお、スポーツ事業において、当社は連結子会社であったダンロップスポーツ(株)及びダンロップインターナショナル(株)を2018年1月1日付で吸収合併しております。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。  
また、前連結会計年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

### 2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期報告書提出日現在において当社グループが判断したものであります。

#### (1) 業績の状況

	前第3四半期 連結累計期間	当第3四半期 連結累計期間	増減率
	百万円	百万円	%
売上収益	618,311	635,974	2.9
タイヤ事業	530,656	540,767	1.9
スポーツ事業	58,743	64,599	10.0
産業品他事業	28,912	30,608	5.9
事業利益	30,272	34,628	14.4
タイヤ事業	24,267	26,957	11.1
スポーツ事業	3,016	4,824	59.9
産業品他事業	2,950	2,844	△3.6
調整額	39	3	—
営業利益	30,039	33,687	12.1
親会社の所有者に 帰属する四半期利益	16,985	17,141	0.9

(注) 事業利益は、売上収益から売上原価、販売費及び一般管理費を控除して算出しております。

#### 為替レートの前提

	前第3四半期 連結累計期間	当第3四半期 連結累計期間	増減
1米ドル当たり	112円	110円	△2円
1ユーロ当たり	125円	131円	6円

当第3四半期連結累計期間（2018年1月1日～2018年9月30日）の世界経済は、米国の通商問題の動向が世界経済に与える影響はあるものの、米国では着実な景気の拡大が継続しており、欧州でも緩やかな景気回復の動きが持続しました。アジアにおいても、中国では比較的高い経済成長率を継続しており、タイやインドネシアにおいても景気の持ち直しが見られるようになり、世界経済全体としては、総じて堅調に推移しました。

わが国経済につきましても、雇用環境は着実に改善し、個人消費の持ち直しや企業収益の改善、設備投資は緩やかに増加するなど、比較的堅調に推移しました。

当社グループを取り巻く情勢につきましては、原油価格が昨年末から上昇を続けましたが、天然ゴム価格相場は安定的に推移しました。販売環境につきましては、市場における競合他社との競争の激化は継続しておりますが、概ね想定の範囲内で推移しました。

このような情勢のもと、当社グループは、2020年を目標年度とする長期ビジョン「VISION 2020」の実現に向けて、グループを挙げて事業の成長と収益力の向上を目指して様々な対策に取り組みました。

この結果、当社グループの売上収益は635,974百万円（前年同期比2.9%増）、事業利益は34,628百万円（前年同期比14.4%増）、営業利益は33,687百万円（前年同期比12.1%増）となり、税金費用を計上した後の最終的な親会社の所有者に帰属する四半期利益は17,141百万円（前年同期比0.9%増）となりました。

セグメント別の業績は、次のとおりであります。

#### (タイヤ事業)

タイヤ事業の売上収益は540,767百万円（前年同期比1.9%増）、事業利益は26,957百万円（前年同期比11.1%増）となりました。

国内新車用タイヤは、自動車生産台数が前年同期並みで推移しましたが、低燃費タイヤを中心とする高付加価値タイヤの拡販により販売数量が増加したため、売上収益は前年同期を上回りました。

国内市販用タイヤは、「ダンロップ」ブランドでは耐摩耗性能と耐偏摩耗性能を向上させ、「より最後まで使える長持ち」を実現した乗用車用低燃費タイヤ「エナセーブEC204（イーシー・ニーマルヨン）」を発売したほか、「LE MANS V（ル・マンファイブ）」などの高付加価値商品の拡販を推進しました。「ファルケン」ブランドでは昨年に引き続き「Red Bull Air Race World Championship 2018」に参戦する室屋義秀選手を「Team FALKEN」としてサポートするなど、ブランドの認知拡大に努めるとともに、高い高速操縦安定性能と優れたウェット性能を実現した、乗用車用の新世代フラッグシップタイヤ「AZENIS FK510（アゼニス・エフケーゴーイチゼロ）」シリーズを発売しました。また、年初の降雪の影響で冬タイヤの出荷が好調に推移したこともあり、売上収益は前年同期を上回りました。

海外新車用タイヤは、欧州、北米のほか、新興国で納入を更に拡大したこともあり、売上収益は前年同期を上回りました。

海外市販用タイヤは、中近東での政情不安に伴う消費の低迷があるものの、景気の拡大が継続する欧州を中心に販売数量が増加したことに加えて、前第1四半期に英国タイヤ販売会社「Micheldever Group Ltd.」を取得したことによる英国市場での販売数量の増加により、売上収益は前年同期を上回りました。

以上の結果、タイヤ事業の売上収益は前年同期を上回り、事業利益も増益となりました。

#### (スポーツ事業)

スポーツ事業の売上収益は64,599百万円（前年同期比10.0%増）、事業利益は4,824百万円（前年同期比59.9%増）となりました。

国内ゴルフ用品市場では、2017年12月に発売したゴルフクラブ「ゼクシオ テン」の販売が引き続き好調に推移したことに加え、2018年9月に新たにゴルフクラブ「NEW スリクソン Zシリーズ」を発売し、国内ゴルフ用品全体の売上収益は前年同期を上回りました。

海外ゴルフ用品市場では、同じく「ゼクシオ テン」が前モデルを上回り好調に推移するなか、「スリクソン」、「クリーブランドゴルフ」の各ブランドにおいても積極的に拡販に努め、売上収益は前年同期を上回りました。

テニス用品市場では、国内では前年同期を下回りましたが、2017年4月に買収した「ダンロップ」ブランドの海外でのテニス事業が欧州、北米を中心として大きく増収に寄与しました。

ウェルネス事業では、ダンロップスポーツクラブやコンパクトジム「ジムスタイル」の新規出店に加えて、既存店の会員数も堅調に推移したことから、売上収益は前年同期を上回りました。

そのほか、ライセンス事業も引き続き増収に寄与し、スポーツ事業の売上収益は前年同期を上回り、事業利益も増益となりました。

なお、2018年1月1日付で当社の子会社であったダンロップスポーツ㈱及びダンロップインターナショナル㈱を吸収合併し、スポーツ事業を統合しております。

#### (産業品他事業)

産業品他事業の売上収益は30,608百万円（前年同期比5.9%増）、事業利益は2,844百万円（前年同期比3.6%減）となりました。

制振事業では、住宅用制震ユニット「ミライエ」の販売が好調に推移し、OA機器用精密ゴム部品では、主要OA機器メーカーのプリンター・コピー機生産増加により、増収となりました。インフラ系商材においては、2018年1月に国内テニスコート設計・施工会社「スポーツサーフェス㈱」を取得したことにより、増収となりました。

以上の結果、産業品他事業の売上収益は前年同期を上回りましたが、為替の影響及び医療用精密ゴム部品のスロベニア新工場建設などにより事業利益は減益となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という）は65,744百万円となり、前連結会計年度末と比較して1,216百万円増加しました。

当第3四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当第3四半期連結累計期間における営業活動による資金の増加は47,030百万円（前年同期比17,555百万円の収入の増加）となりました。これは主として、棚卸資産の増加37,364百万円、営業債務及びその他の債務の減少7,526百万円などの減少要因があったものの、税引前四半期利益の計上27,788百万円、減価償却費及び償却費の計上42,808百万円、季節要因による営業債権及びその他の債権の減少20,497百万円などの増加要因によるものです。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当第3四半期連結累計期間における投資活動による資金の減少は51,974百万円（前年同期比30,827百万円の支出の減少）となりました。これは主として、設備投資の増加に伴う有形固定資産の取得による支出48,246百万円によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当第3四半期連結累計期間における財務活動による資金の増加は10,839百万円（前年同期比42,493百万円の収入の減少）となりました。これは主として、短期借入金、長期借入金及び社債が純額で29,122百万円増加したほか、配当金の支払15,511百万円を行ったためであります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、事業上及び財務上対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間の研究開発費の総額は19,208百万円であります。なお、当第3四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### ①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数 (株)
普通株式	800,000,000
計	800,000,000

###### ②【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間 末現在発行数 (株) (2018年9月30日)	提出日現在発行数 (株) (2018年11月8日現在)	上場金融商品取引所名又は 登録認可金融商品取引 業協会名	内容
普通株式	263,043,057	263,043,057	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数 100株
計	263,043,057	263,043,057	—	—

##### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2018年7月1日～ 2018年9月30日	—	263,043	—	42,658	—	38,702

##### (6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。



(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（2018年6月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

①【発行済株式】

(2018年9月30日現在)

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 32,700	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 262,185,500	2,621,855	—
単元未満株式	普通株式 824,857	—	—
発行済株式総数	263,043,057	—	—
総株主の議決権	—	2,621,855	—

- (注) 1. 「完全議決権株式(その他)」の欄の株式数には、証券保管振替機構名義の株式が1,800株含まれております。
2. 「単元未満株式」の欄の株式数には、当社所有の自己株式70株及び証券保管振替機構名義の株式10株が含まれております。
3. 「完全議決権株式(その他)」欄及び「総株主の議決権」欄の議決権の数には、いずれも証券保管振替機構名義の株式に係る議決権18個が含まれております。

②【自己株式等】

(2018年9月30日現在)

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
住友ゴム工業株式会社	神戸市中央区脇浜町三丁目6番9号	32,700	—	32,700	0.01
計	—	32,700	—	32,700	0.01

(注) 自己株式数は、2018年1月1日付でダンロップスポーツ(株)を吸収合併したことに伴う同社の株主への割当て交付により、9,008,294株減少しております。このほか、単元未満株式の買取・売渡により増減した株式数を含めた第2四半期連結会計期間末日現在における自己株式数は、32,770株となっております。なお、そのうち70株については、単元未満株式であるため上記の表には記載されておられません。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1. 要約四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の要約四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（2007年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。）第1条の2に掲げる「指定国際会計基準特定会社」の要件を満たすことから、同第93条の規定により、国際会計基準第34号「期中財務報告」（以下「IAS第34号」という。）に準拠して作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（2018年7月1日から2018年9月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（2018年1月1日から2018年9月30日まで）に係る要約四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【要約四半期連結財務諸表】

(1) 【要約四半期連結財政状態計算書】

(単位：百万円)

	注記	前連結会計年度 (2017年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2018年9月30日)
<b>資産</b>			
流動資産			
現金及び現金同等物	7	64,528	65,744
営業債権及びその他の債権	7	209,308	184,403
その他の金融資産	7	9,195	7,961
棚卸資産		159,010	190,620
その他の流動資産		23,932	27,075
流動資産合計		465,973	475,803
非流動資産			
有形固定資産		379,747	364,476
のれん		35,202	35,643
無形資産		49,989	47,056
持分法で会計処理されている投資		4,171	4,253
その他の金融資産	7	37,098	36,469
退職給付に係る資産		25,378	25,481
繰延税金資産		15,172	13,417
その他の非流動資産		5,536	5,256
非流動資産合計		552,293	532,051
資産合計		1,018,266	1,007,854

(単位：百万円)

	注記	前連結会計年度 (2017年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2018年9月30日)
<b>負債及び資本</b>			
負債			
流動負債			
社債及び借入金	7	116,477	153,499
営業債務及びその他の債務	7	136,100	122,109
その他の金融負債	7	1,776	2,178
未払法人所得税		5,602	6,387
引当金		6,782	4,569
その他の流動負債		36,562	42,818
流動負債合計		303,299	331,560
非流動負債			
社債及び借入金	7	152,424	141,315
その他の金融負債	7	3,644	3,247
退職給付に係る負債		21,680	21,032
引当金		1,199	1,217
繰延税金負債		22,382	20,676
その他の非流動負債		22,752	21,233
非流動負債合計		224,081	208,720
負債合計		527,380	540,280
資本			
資本金		42,658	42,658
資本剰余金		37,865	39,487
利益剰余金		428,799	425,264
自己株式		△17,631	△67
その他の資本の構成要素		△31,784	△54,280
親会社の所有者に帰属する持分合計		459,907	453,062
非支配持分		30,979	14,512
資本合計		490,886	467,574
負債及び資本合計		1,018,266	1,007,854

## (2) 【要約四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	注記	前第3四半期連結累計期間 (自 2017年1月1日 至 2017年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2018年1月1日 至 2018年9月30日)
売上収益	5, 6	618,311	635,974
売上原価		△441,680	△454,323
売上総利益		176,631	181,651
販売費及び一般管理費		△146,359	△147,023
事業利益		30,272	34,628
その他の収益		1,819	1,686
その他の費用		△2,052	△2,627
営業利益		30,039	33,687
金融収益		2,755	1,952
金融費用		△3,571	△7,935
持分法による投資利益		56	84
税引前四半期利益		29,279	27,788
法人所得税費用		△10,408	△10,005
四半期利益		18,871	17,783
四半期利益の帰属			
親会社の所有者		16,985	17,141
非支配持分		1,886	642
四半期利益		18,871	17,783
1株当たり四半期利益			
基本的1株当たり四半期利益(円)	9	64.81	65.39

## 【第3四半期連結会計期間】

(単位：百万円)

	注記	前第3四半期連結会計期間 (自 2017年7月1日 至 2017年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (自 2018年7月1日 至 2018年9月30日)
売上収益	5	214,934	210,622
売上原価		△156,541	△156,462
売上総利益		58,393	54,160
販売費及び一般管理費		△49,967	△46,419
事業利益		8,426	7,741
その他の収益		917	540
その他の費用		△540	△1,643
営業利益		8,803	6,638
金融収益		1,607	496
金融費用		△1,779	△2,806
持分法による投資利益		28	5
税引前四半期利益		8,659	4,333
法人所得税費用		△3,505	△1,530
四半期利益		5,154	2,803
四半期利益の帰属			
親会社の所有者		4,556	2,919
非支配持分		598	△116
四半期利益		5,154	2,803
1株当たり四半期利益			
基本的1株当たり四半期利益(円)	9	17.41	11.10

## (3) 【要約四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 注記 (自 2017年1月1日 至 2017年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2018年1月1日 至 2018年9月30日)
四半期利益	18,871	17,783
その他の包括利益		
純損益に振り替えられることのない項目		
その他の包括利益を通じて公正価値で測定 する金融資産	1,650	△526
純損益に振り替えられる可能性のある項目		
キャッシュ・フロー・ヘッジ	△531	187
在外営業活動体の換算差額	2,785	△24,021
税引後その他の包括利益	3,904	△24,360
四半期包括利益	22,775	△6,577
四半期包括利益の帰属		
親会社の所有者	21,093	△5,194
非支配持分	1,682	△1,383
四半期包括利益	22,775	△6,577

## 【第3四半期連結会計期間】

(単位：百万円)

	注記	前第3四半期連結会計期間 (自 2017年7月1日 至 2017年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (自 2018年7月1日 至 2018年9月30日)
四半期利益		5,154	2,803
その他の包括利益			
純損益に振り替えられることのない項目			
その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産		981	234
純損益に振り替えられる可能性のある項目			
キャッシュ・フロー・ヘッジ		25	29
在外営業活動体の換算差額		8,841	3,107
税引後その他の包括利益		9,847	3,370
四半期包括利益		15,001	6,173
四半期包括利益の帰属			
親会社の所有者		14,152	6,881
非支配持分		849	△708
四半期包括利益		15,001	6,173



## (4) 【要約四半期連結持分変動計算書】

前第3四半期連結累計期間（自 2017年1月1日 至 2017年9月30日）

（単位：百万円）

	注記	親会社の所有者に帰属する持分					
		資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	その他の資本の構成要素	
						在外営業活動体の換算差額	キャッシュ・フロー・ヘッジ
2017年1月1日時点の残高		42,658	37,937	389,970	△570	△49,657	△185
四半期利益				16,985			
その他の包括利益						2,976	△543
四半期包括利益合計		—	—	16,985	—	2,976	△543
自己株式の取得	8				△4,596		
自己株式の処分			1		0		
配当金				△13,116			
支配継続子会社に対する持分変動							
連結子会社合併に伴う非支配持分の取得							
利益剰余金への振替				36			
資本剰余金への振替							
その他の増減額							
所有者との取引額合計		—	1	△13,080	△4,596	—	280
2017年9月30日時点の残高		42,658	37,938	393,875	△5,166	△46,681	△448

	注記	親会社の所有者に帰属する持分				非支配持分	資本合計	
		その他の資本の構成要素			合計			
		その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産	確定給付制度の再測定	合計				
2017年1月1日時点の残高		9,163	—	△40,679	429,316	30,225	459,541	
四半期利益				—	16,985	1,886	18,871	
その他の包括利益		1,675		4,108	4,108	△204	3,904	
四半期包括利益合計		1,675	—	4,108	21,093	1,682	22,775	
自己株式の取得	8			—	△4,596		△4,596	
自己株式の処分				—	1		1	
配当金					—	△13,116	△1,201	△14,317
支配継続子会社に対する持分変動					—	—	607	607
連結子会社合併に伴う非支配持分の取得					—	—		—
利益剰余金への振替			△36		△36	—		—
資本剰余金への振替					—	—		—
その他の増減額					280	280		280
所有者との取引額合計		△36	—	244	△17,431	△594	△18,025	
2017年9月30日時点の残高		10,802	—	△36,327	432,978	31,313	464,291	

当第3四半期連結累計期間（自 2018年1月1日 至 2018年9月30日）

（単位：百万円）

	注記	親会社の所有者に帰属する持分						
		資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	その他の資本の構成要素		
						在外営業活動体の換算差額	キャッシュ・フロー・ヘッジ	
2018年1月1日時点の残高		42,658	37,865	428,799	△17,631	△43,902	△436	
四半期利益				17,141				
その他の包括利益						△21,997	187	
四半期包括利益合計		—	—	17,141	—	△21,997	187	
自己株式の取得	8				△29			
自己株式の処分			1		3			
配当金				△15,511				
支配継続子会社に対する持分変動			3			0		
連結子会社合併に伴う非支配持分の取得				△3,598		17,590	△233	0
利益剰余金への振替					51			
資本剰余金への振替				5,216	△5,216			
その他の増減額								△41
所有者との取引額合計		—	1,622	△20,676	17,564	△233	△41	
2018年9月30日時点の残高		42,658	39,487	425,264	△67	△66,132	△290	

	注記	親会社の所有者に帰属する持分				非支配持分	資本合計	
		その他の資本の構成要素			合計			
		その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産	確定給付制度の再測定	合計				
2018年1月1日時点の残高		12,554	—	△31,784	459,907	30,979	490,886	
四半期利益				—	17,141	642	17,783	
その他の包括利益		△525		△22,335	△22,335	△2,025	△24,360	
四半期包括利益合計		△525	—	△22,335	△5,194	△1,383	△6,577	
自己株式の取得	8			—	△29		△29	
自己株式の処分				—	4		4	
配当金				—	△15,511	△1,257	△16,768	
支配継続子会社に対する持分変動				0	3	96	99	
連結子会社合併に伴う非支配持分の取得			123	41	△69	13,923	△13,923	—
利益剰余金への振替			△10	△41	△51	—	—	
資本剰余金への振替					—	—	—	
その他の増減額					△41	△41		△41
所有者との取引額合計		113	—	△161	△1,651	△15,084	△16,735	
2018年9月30日時点の残高		12,142	—	△54,280	453,062	14,512	467,574	

## (5) 【要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	注記	前第3四半期連結累計期間 (自 2017年1月1日 至 2017年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2018年1月1日 至 2018年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>			
税引前四半期利益		29,279	27,788
減価償却費及び償却費		41,559	42,808
受取利息及び受取配当金		△1,874	△1,952
支払利息		3,570	3,019
持分法による投資損益 (△は益)		△56	△84
棚卸資産の増減額 (△は増加)		△22,927	△37,364
営業債権及びその他の債権の増減額 (△は増加)		7,123	20,497
営業債務及びその他の債務の増減額 (△は減少)		△6,725	△7,526
その他		2,826	11,702
小計		52,775	58,888
利息の受取額		1,496	1,597
配当金の受取額		368	322
利息の支払額		△3,129	△2,559
法人所得税の支払額		△22,035	△11,218
営業活動によるキャッシュ・フロー		29,475	47,030
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>			
有形固定資産の取得による支出		△45,338	△48,246
有形固定資産の売却による収入		575	258
無形資産の取得による支出		△2,854	△2,056
投資有価証券の売却による収入		265	—
連結範囲の変更を伴う子会社株式の取得による 支出		△34,827	△83
事業譲受による支出		△690	△1,596
その他		68	△251
投資活動によるキャッシュ・フロー		△82,801	△51,974
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>			
短期借入金の純増減額 (△は減少)		64,203	40,116
社債発行及び長期借入による収入		30,838	11,855
社債償還及び長期借入金の返済による支出		△21,386	△22,849
非支配持分からの払込みによる収入		607	99
配当金の支払額	8	△13,116	△15,511
非支配持分への配当金の支払額		△1,201	△1,257
自己株式の取得による支出		△4,596	△25
その他		△2,017	△1,589
財務活動によるキャッシュ・フロー		53,332	10,839
現金及び現金同等物に係る換算差額		293	△4,679
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)		299	1,216
現金及び現金同等物の期首残高		66,492	64,528
現金及び現金同等物の四半期末残高		66,791	65,744

## 【要約四半期連結財務諸表注記】

### 1. 報告企業

住友ゴム工業株式会社は、日本に所在する企業であります。当社の本要約四半期連結財務諸表は2018年9月30日を期末日とし、当社グループ並びに当社の関連会社により構成されております。当社グループの主な事業内容は、「注記5. セグメント情報」に記載しております。

### 2. 作成の基礎

#### (1) 要約四半期連結財務諸表がIFRSに準拠している旨の記載

当社グループの要約四半期連結財務諸表は、四半期連結財務諸表規則第1条の2に掲げる「指定国際会計基準特定会社」の要件を満たすことから、同第93条の規定により、IAS第34号に準拠して作成しております。

本要約四半期連結財務諸表は、年次の連結財務諸表で要求されている全ての情報が含まれていないため、前連結会計年度の連結財務諸表と併せて利用されるべきものであります。

本要約四半期連結財務諸表は、2018年11月7日に代表取締役社長 池田育嗣によって承認されております。

#### (2) 測定の基礎

要約四半期連結財務諸表は、公正価値で測定されている特定の金融商品等を除き、取得原価を基礎として作成しております。

#### (3) 表示通貨及び単位

要約四半期連結財務諸表は、当社の機能通貨である日本円を表示通貨としており、百万円未満を四捨五入して表示しております。

### 3. 重要な会計方針

本要約四半期連結財務諸表において適用する重要な会計方針は、以下を除き、前連結会計年度の連結財務諸表において適用した会計方針と同一であります。

なお、当第3四半期連結累計期間の法人所得税費用は、見積平均年次実効税率を用いて算定しております。

当社グループは、第1四半期連結会計期間より以下の基準を適用しております。

IFRS		新設・改訂内容
IFRS第15号	顧客との契約から生じる収益	収益認識に関する会計処理の改訂

当社グループは、IFRS第15号「顧客との契約から生じる収益」（2014年5月公表）及び「IFRS第15号の明確化」（2016年4月公表）（合わせて以下「IFRS第15号」という。）を第1四半期連結会計期間から適用しております。

IFRS第15号の適用にあたっては、経過措置として認められている、本基準の適用による累積的影響を適用開始日に認識する方法を採用しております。

IFRS第15号の適用に伴い、IFRS第9号「金融商品」に基づく利息及び配当収益等を除き、以下の5ステップを適用することにより収益を認識しております。

ステップ1：顧客との契約を識別する。

ステップ2：契約における履行義務を識別する。

ステップ3：取引価格を算定する。

ステップ4：取引価格を契約における履行義務に配分する。

ステップ5：履行義務の充足時に（又は充足するにつれて）収益を認識する。

これらの基準及び解釈指針の適用が当社グループの要約四半期連結財務諸表に与える重要な影響はありません。

具体的な収益認識の基準は「注記6. 売上収益」に記載しております。

#### 4. 重要な会計上の見積り及び判断

本要約四半期連結財務諸表の作成において、経営者は、会計方針の適用並びに資産、負債、収益及び費用の金額に影響を及ぼす判断、見積り及び仮定を行うことが要求されております。実際の業績は、これらの見積りとは異なる場合があります。

会計上の見積り及びその基礎となる仮定は、継続して見直しを行っております。会計上の見積りの見直しによる影響は、その見積りを見直した会計期間及び将来の会計期間において認識しております。

本要約四半期連結財務諸表の金額に重要な影響を与える見積り及び判断は、前連結会計年度に係る連結財務諸表と同様であります。

#### 5. セグメント情報

##### (1) 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、最高意思決定機関である取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、タイヤ事業、スポーツ事業及び産業品他事業の3つの事業を基礎として組織が構成されており、各事業単位で、国内及び海外の包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。

したがって、当社グループは、「タイヤ事業」「スポーツ事業」「産業品他事業」を報告セグメントに分類しております。

各報告セグメントに属する主要な製品・サービス又は事業内容は、以下のとおりであります。

報告セグメント	主要な製品・サービス又は事業内容
タイヤ	タイヤ・チューブ（自動車用、建設車両用、産業車両用、レース・ラリー用、 モーターサイクル用等） オートモーティブ事業（パンク応急修理剤、空気圧警報装置等）
スポーツ	スポーツ用品（ゴルフクラブ、ゴルフボール、その他ゴルフ用品、テニス用品等）、 ゴルフトーナメント運営、 ゴルフスクール・テニススクール運営、 フィットネス事業、他
産業品他	高機能ゴム事業（制振ダンパー、OA機器用精密ゴム、医療用精密ゴム等） 生活用品事業（炊事・作業用手袋、車椅子用スロープ等） インフラ事業（防舷材、工場用・スポーツ施設用各種床材等）

##### (2) 報告セグメントごとの売上収益、利益又は損失の金額に関する情報

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「注記3. 重要な会計方針」における記載と同一であります。

セグメント間売上収益は市場価格等を考慮した仕切価格に基づいております。

報告セグメントの数値は事業利益ベースの数値であります。

報告セグメントごとの売上収益、利益又は損失の金額に関する情報は以下のとおりであります。

前第3四半期連結累計期間（自 2017年1月1日 至 2017年9月30日）

（単位：百万円）

	報告セグメント			合計	調整額 (注) 2	要約四半期 連結財務諸表 計上額
	タイヤ	スポーツ	産製品他			
外部顧客からの売上収益	530,656	58,743	28,912	618,311	—	618,311
セグメント間売上収益	25	181	548	754	△754	—
合計	530,681	58,924	29,460	619,065	△754	618,311
セグメント利益 (事業利益) (注) 1	24,267	3,016	2,950	30,233	39	30,272
その他の収益及び費用						△233
営業利益						30,039

(注) 1. セグメント利益（事業利益）は、売上収益から売上原価、販売費及び一般管理費を控除して算出しております。

2. セグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去等が含まれております。

当第3四半期連結累計期間（自 2018年1月1日 至 2018年9月30日）

（単位：百万円）

	報告セグメント			合計	調整額 (注) 2	要約四半期 連結財務諸表 計上額
	タイヤ	スポーツ	産製品他			
外部顧客からの売上収益	540,767	64,599	30,608	635,974	—	635,974
セグメント間売上収益	97	259	651	1,007	△1,007	—
合計	540,864	64,858	31,259	636,981	△1,007	635,974
セグメント利益 (事業利益) (注) 1	26,957	4,824	2,844	34,625	3	34,628
その他の収益及び費用						△941
営業利益						33,687

(注) 1. セグメント利益（事業利益）は、売上収益から売上原価、販売費及び一般管理費を控除して算出しております。

2. セグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去等が含まれております。

前第3四半期連結会計期間（自 2017年7月1日 至 2017年9月30日）

（単位：百万円）

	報告セグメント			合計	調整額 (注) 2	要約四半期 連結財務諸表 計上額
	タイヤ	スポーツ	産製品他			
外部顧客からの売上収益	184,436	20,849	9,649	214,934	—	214,934
セグメント間売上収益	13	68	193	274	△274	—
合計	184,449	20,917	9,842	215,208	△274	214,934
セグメント利益 (事業利益) (注) 1	6,844	522	1,064	8,430	△4	8,426
その他の収益及び費用						377
営業利益						8,803

(注) 1. セグメント利益（事業利益）は、売上収益から売上原価、販売費及び一般管理費を控除して算出しております。

2. セグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去等が含まれております。

当第3四半期連結会計期間（自 2018年7月1日 至 2018年9月30日）

（単位：百万円）

	報告セグメント			合計	調整額 (注) 2	要約四半期 連結財務諸表 計上額
	タイヤ	スポーツ	産製品他			
外部顧客からの売上収益	179,950	20,803	9,869	210,622	—	210,622
セグメント間売上収益	92	82	236	410	△410	—
合計	180,042	20,885	10,105	211,032	△410	210,622
セグメント利益 (事業利益) (注) 1	6,282	660	804	7,746	△5	7,741
その他の収益及び費用						△1,103
営業利益						6,638

(注) 1. セグメント利益（事業利益）は、売上収益から売上原価、販売費及び一般管理費を控除して算出しております。

2. セグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去等が含まれております。

## 6. 売上収益

主たる地域市場における収益の分解と報告セグメントとの関連は以下のとおりであります。

なお、当社グループでは、IFRS第15号の適用にあたっては、経過措置として認められている、本基準の適用による累積的影響を適用開始日に認識する方法を採用しており、前連結会計年度の修正再表示はおこなっておりません。

前第3四半期連結累計期間（自 2017年1月1日 至 2017年9月30日）

（単位：百万円）

	報告セグメント			
	タイヤ	スポーツ	産業品他	合計
日本	160,049	33,391	18,736	212,176
北米	104,571	7,789	151	112,511
欧州	68,014	6,550	3,380	77,944
アジア	113,900	9,677	6,211	129,788
その他	84,122	1,336	434	85,892
合計	530,656	58,743	28,912	618,311

（注）売上収益は顧客の所在地を基礎とし、セグメント間の内部取引控除後の金額を表示しております。

当第3四半期連結累計期間（自 2018年1月1日 至 2018年9月30日）

（単位：百万円）

	報告セグメント			
	タイヤ	スポーツ	産業品他	合計
日本	164,837	36,529	20,163	221,529
北米	100,369	8,776	124	109,269
欧州	87,422	7,159	3,400	97,981
アジア	114,090	10,100	6,453	130,643
その他	74,049	2,035	468	76,552
合計	540,767	64,599	30,608	635,974

（注）売上収益は顧客の所在地を基礎とし、セグメント間の内部取引控除後の金額を表示しております。

### （タイヤ事業）

タイヤ事業においては、「ダンロップ」「ファルケン」をメインブランドとする乗用車用、トラック・バス用、モーターサイクル用など各種タイヤ及び関連用品を国内外の顧客に提供しております。顧客に商品を引き渡した時点で、履行義務を充足したと判断し、同時点で収益を認識しております。

顧客への納品後、1年以内に支払いを受けているため、約束した対価の金額に重要な金融要素は含まれておりません。

### （スポーツ事業）

スポーツ事業においては、スポーツ用品の販売を国内外の顧客に提供すると共に、ゴルフトーナメント運営、ゴルフスクール・テニススクール、フィットネスクラブなどのサービスを提供しております。

スポーツ用品の販売においては、顧客に商品を引き渡した時点で、履行義務を充足したと判断し、同時点で収益を認識しております。

ゴルフトーナメント運営においては、主催者に対して契約期間に基づき、トーナメント運営のサービスを提供する義務を負っております。当該履行義務はサービスを提供した時点で充足されるため、同時点で収益を認識しております。



ゴルフスクール・テニススクールにおいては、会員に対して契約期間に渡り、レッスンサービスを提供する義務を負っております。当該履行義務はサービスを提供した時点で充足されるため、同時点で収益を認識しております。フィットネスクラブにおいては、会員に対して契約期間に渡り、施設利用サービスを提供する義務を負っております。当該履行義務はサービスを提供した時点で充足されるため、同時点で収益を認識しております。

顧客への納品後またはサービスの提供後、1年以内に支払いを受けているため、約束した対価の金額に重要な金融要素は含まれておりません。

(産業品他事業)

産業品他事業においては、高機能ゴム製品、生活用品、インフラ系商材などを国内外の顧客に提供しております。顧客に商品を引き渡した時点で、履行義務を充足したと判断し、同時点で収益を認識しております。

顧客への納品後、1年以内に支払いを受けているため、約束した対価の金額に重要な金融要素は含まれておりません。

## 7. 金融商品

### 金融商品の公正価値

#### (1) 公正価値の測定方法

当社グループは、金融資産及び金融負債の公正価値について以下のとおり決定しております。金融商品の公正価値の見積りにおいて、市場価格が入手できる場合は市場価格を利用しております。市場価格が入手できない金融商品の公正価値に関しては、適切な評価方法により見積りを行っております。

##### (社債及び借入金)

社債及び長期の借入金につきましては、元利金の合計額を同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いて算定し、公正価値ヒエラルキーのレベル2に分類しております。

##### (デリバティブ)

デリバティブにつきましては、契約締結先金融機関から提示された価額に基づいて算定し、公正価値ヒエラルキーのレベル2に分類しております。

##### (その他の金融資産等)

その他の金融資産のうち、流動項目等短期間で決済されるものは、帳簿価額が公正価値の合理的な近似値となっております。市場性のある有価証券の公正価値は、市場価格に基づいて算定し、公正価値ヒエラルキーのレベル1に分類しております。

それ以外の金融商品の公正価値の算定には、割引キャッシュ・フロー分析などその他の技法を用いており、公正価値ヒエラルキーのレベル2に分類しております。

なお、公正価値ヒエラルキーにつきましては、「(3) 公正価値ヒエラルキー」をご参照ください。

## (2) 金融商品の帳簿価額と公正価値

金融商品の帳簿価額と公正価値は以下のとおりであります。

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2017年12月31日)		当第3四半期連結会計期間 (2018年9月30日)	
	帳簿価額	公正価値	帳簿価額	公正価値
純損益を通じて公正価値で測定される金融資産				
ヘッジ会計を適用していないデリバティブ	1,669	1,669	176	176
貸付金	1,041	1,041	1,041	1,041
その他の包括利益を通じて公正価値で測定される金融資産				
ヘッジ会計を適用しているデリバティブ	439	439	613	613
資本性金融商品	27,031	27,031	26,257	26,257
償却原価で測定される金融資産				
現金及び現金同等物	64,528	64,528	65,744	65,744
営業債権及びその他の債権	209,308	209,308	184,403	184,403
その他の金融資産	16,113	16,113	16,343	16,343
純損益を通じて公正価値で測定される金融負債				
ヘッジ会計を適用していないデリバティブ	190	190	798	798
その他の包括利益を通じて公正価値で測定される金融負債				
ヘッジ会計を適用しているデリバティブ	645	645	532	532
償却原価で測定される金融負債				
営業債務及びその他の債務	136,100	136,100	122,109	122,109
社債及び借入金	268,901	270,455	294,814	296,120
リース債務	4,585	4,732	4,095	4,239

(3) 公正価値ヒエラルキー

要約四半期連結財政状態計算書に認識された金融資産及び金融負債に関する経常的な公正価値測定の実績は以下のとおりであります。

これらの公正価値測定は、用いられる評価技法へのインプットに基づいて、3つの公正価値ヒエラルキーのレベルに区分されております。それぞれのレベルは、以下のように定義しております。

レベル1：活発に取引される市場の公表価格により測定された公正価値

レベル2：レベル1以外の、観察可能な価格を直接、又は間接的に使用して算出された公正価値

レベル3：観察不能なインプットを含む評価技法から算出された公正価値

前連結会計年度（2017年12月31日）

（単位：百万円）

	レベル1	レベル2	レベル3	合計
資産				
純損益を通じて公正価値で測定される金融資産				
ヘッジ会計を適用していないデリバティブ	—	1,669	—	1,669
貸付金	—	1,041	—	1,041
その他の包括利益を通じて公正価値で測定される金融資産				
ヘッジ会計を適用しているデリバティブ	—	439	—	439
資本性金融商品	25,162	—	1,869	27,031
資産合計	25,162	3,149	1,869	30,180
負債				
純損益を通じて公正価値で測定される金融負債				
ヘッジ会計を適用していないデリバティブ	—	190	—	190
その他の包括利益を通じて公正価値で測定される金融負債				
ヘッジ会計を適用しているデリバティブ	—	645	—	645
負債合計	—	835	—	835

当第3四半期連結会計期間（2018年9月30日）

（単位：百万円）

	レベル1	レベル2	レベル3	合計
資産				
純損益を通じて公正価値で測定される金融資産				
ヘッジ会計を適用していないデリバティブ	—	176	—	176
貸付金	—	1,041	—	1,041
その他の包括利益を通じて公正価値で測定される金融資産				
ヘッジ会計を適用しているデリバティブ	—	613	—	613
資本性金融商品	24,335	—	1,922	26,257
資産合計	24,335	1,830	1,922	28,087
負債				
純損益を通じて公正価値で測定される金融負債				
ヘッジ会計を適用していないデリバティブ	—	798	—	798
その他の包括利益を通じて公正価値で測定される金融負債				
ヘッジ会計を適用しているデリバティブ	—	532	—	532
負債合計	—	1,330	—	1,330

前連結会計年度及び当第3四半期連結会計期間において、レベル間で振り替えが行われた金融商品はありませ  
ん。

## 8. 配当金

普通株主への配当金支払額は以下のとおりであります。

前第3四半期連結累計期間（自 2017年1月1日 至 2017年9月30日）

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
2017年3月29日 定時株主総会	普通株式	6,558	利益剰余金	25.00	2016年12月31日	2017年3月30日
2017年8月8日 取締役会	普通株式	6,558	利益剰余金	25.00	2017年6月30日	2017年9月6日

当第3四半期連結累計期間（自 2018年1月1日 至 2018年9月30日）

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
2018年3月29日 定時株主総会	普通株式	7,620	利益剰余金	30.00	2017年12月31日	2018年3月30日
2018年8月7日 取締役会	普通株式	7,890	利益剰余金	30.00	2018年6月30日	2018年9月5日

## 9. 1株当たり利益

### (1) 基本的1株当たり四半期利益

基本的1株当たり四半期利益は以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2017年1月1日 至 2017年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2018年1月1日 至 2018年9月30日)
基本的1株当たり四半期利益 (円)	64.81	65.39

	前第3四半期連結会計期間 (自 2017年7月1日 至 2017年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (自 2018年7月1日 至 2018年9月30日)
基本的1株当たり四半期利益 (円)	17.41	11.10

### (2) 基本的1株当たり四半期利益の算定上の基礎

基本的1株当たり四半期利益の算定上の基礎は以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2017年1月1日 至 2017年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2018年1月1日 至 2018年9月30日)
親会社の所有者に帰属する四半期利益 (百万円)	16,985	17,141
発行済普通株式の加重平均株式数 (千株)	262,081	262,111

なお、希薄化後1株当たり四半期利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

	前第3四半期連結会計期間 (自 2017年7月1日 至 2017年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (自 2018年7月1日 至 2018年9月30日)
親会社の所有者に帰属する四半期利益 (百万円)	4,556	2,919
発行済普通株式の加重平均株式数 (千株)	261,728	263,010

なお、希薄化後1株当たり四半期利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

## 10. 後発事象

該当事項はありません。

## 2 【その他】

2018年8月7日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

(イ) 中間配当による配当金の総額……………7,890百万円

(ロ) 1株当たりの金額……………30円00銭

(ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日……………2018年9月5日

(注) 2018年6月30日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払いを行います。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。



# 独立監査人の四半期レビュー報告書

2018年11月7日

住友ゴム工業株式会社  
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 黒木 賢一郎 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 谷 尋 史 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 山 田 岳 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている住友ゴム工業株式会社の2018年1月1日から2018年12月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（2018年7月1日から2018年9月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（2018年1月1日から2018年9月30日まで）に係る要約四半期連結財務諸表、すなわち、要約四半期連結財政状態計算書、要約四半期連結損益計算書、要約四半期連結包括利益計算書、要約四半期連結持分変動計算書、要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び要約四半期連結財務諸表注記について四半期レビューを行った。

## 要約四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」第93条の規定により国際会計基準第34号「期中財務報告」に準拠して要約四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない要約四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

## 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から要約四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

## 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の要約四半期連結財務諸表が、国際会計基準第34号「期中財務報告」に準拠して、住友ゴム工業株式会社及び連結子会社の2018年9月30日現在の財政状態、同日をもって終了する第3四半期連結会計期間及び第3四半期連結累計期間の経営成績並びに第3四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

## 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれておりません。